

# 第6学年 体育科学習指導案

日 時 令和4年4月27日（水）5校時  
対 象 第6学年2組38名  
指導者 杉浦 綾子

## 1 単元名

『Let's try! みんなでマット』（器械運動 マット運動）

## 2 単元の目標

- 回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができる。 【知識及び技能】
- 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・マット運動の行い方を理解している。</li><li>・回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したりしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・運動に積極的に取り組もうとしている。</li><li>・約束を守り、助け合って運動しようとしている。</li><li>・仲間の考えや取組を認めようとしている。</li><li>・場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。</li></ul>

## 4 単元について

### (1) 教材観

マット運動は、回転系や技巧系などのいろいろな技に挑戦し、できなかったことができるようになったり、上手になったりして、自己の課題を達成する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

高学年では、マット運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、中学年で学習した基本的な技を安定して行ったり、その発展技やさらなる発展技に取り組んだり、それらを組み合わせたりして技を身に付けるようにし、中学校の器械運動の学習につなげていくことが求められる。また、運動を楽しく行うために、自己やグループの課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることなどをできるようにすることが大切である。

そこで本単元では、児童自らが課題を設定し、個別最適な学び、協働的な学びを通して、グル

ープでより大きく美しい演技を行うことを目指し、学習活動に取り組んでいく。その学習過程で、情報技術を効果的に活用し、学び合いながら、課題を解決しようとする力を育てていく。

## (2) 児童の実態

4月当初に実態調査を行ったところ、約9割の児童が「体育の学習が好き」と答えていた。しかし、「マット運動が好き」と答えた児童は4割であった。マット運動が好きではない理由として、「できない技が多いから」「役に立たなさそう」「目が回る」「体が痛くなる」という意見が多くあった。体を動かすことは好きだが、マット運動には多くの児童が苦手意識をもっていることが分かった。

また、児童はこれまで、コラボノート®EX、SKYMENU Cloud、Google スライド、GarageBand など様々なアプリケーションを積極的に活用したり、プログラミングの体験をしたりしてきた。学習や生活の場面において、ICT が有効な活用方法を自分で選択し、活用することができるようになってきている。

模範動画や学習資料など視覚的に影響力のある資料を準備し、共に学び合う学習形態を意図的に設定することで、学習活動のより一層の活性化を目指すとともに、どの子も「できた」「もっとやってみよう」といった学びの達成感を味わわせていきたい。

## 5 研究主題との関連

### (1) 主題に迫るための2つの手だて

研究主題に迫るために本単元における手だてや学習活動を以下に示す

#### 個別最適な学び

- ・自己の課題に適した練習の場を選ぶことで、課題を解決することができるようにする。(学習の個性化)
- ・タブレットを活用して、動きのポイントと自己の動きを照らし合わせ、技のできばえや次の課題を確認できるようにする。(指導の個別化)

#### 協働的な学び

- ・4～5人のグループで動きを組み合わせることで、発表会をすることで、互いに学び合うことができるようにする。
- ・タブレットを活用して、技や演技のこつや分かったことを仲間に伝えることができるようにする。

### (2) ICT 活用の経過

タブレットの具体的な活用実態について以下の表にまとめた。

時期	ツール	内容
4月	カメラ Google ドライブ QR コード Google Classroom コラボノート®EX	写真の撮影 写真、課題の保存・共有 資料となる web ページの閲覧 学習で使用する資料の配付、課題の提出、連絡帳 授業用ワークシート

6 単元の指導と評価の計画（6時間扱い 本時 4 / 6）

時	学 習 活 動	○評価規準【観点】★ICTの活用
1	<p>オリエンテーション</p> <p>既習を振り返る。</p> <p>目的意識をもつ。</p> <p>技に対する自分の現状を知る。</p>	<p>○運動の課題や約束、場や用具の使い方、場の安全な確保等、マット運動の行い方を理解している。 【知・技】</p> <p>○準備や片付けなど分担された役割を果たそうとしている。 【態】</p>
2	<p><b>知る時間</b></p> <p>自分の課題を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回転系接点技群前転グループ</li> <li>・回転系接点技群後転グループ</li> <li>・回転系ほん点技群倒立回転グループ</li> <li>・巧技系平均立ち技群倒立グループ</li> </ul>	<p>○技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。 【知・技】</p> <p>○自分の能力に適した課題を見付けたり、学習資料を活用して課題の解決に向けた活動を選んだりしている。 【思・判・表】</p>
3	<p><b>取り組む時間</b></p> <p>技のできばえを振り返り、自己やグループの課題を確認する。</p>	<p>○技のできばえを振り返り、課題を修正したり、新たな課題を見付けたりしている。 【思・判・表】</p> <p>○場や器械・器具の安全に気を配っている。 【態】</p> <p>★カメラ機能</p>
4 本 時	<p><b>取り組む時間</b></p> <p>仲間と互いの動きを見合い、課題の解決の仕方や技の組み合わせを工夫する。</p>	<p>○観察し合って見付けた自己のこつや仲間の考えたことを他者に伝えている。 【思・判・表】</p> <p>○学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合っている。 【態】</p> <p>★カメラ機能</p> <p>★Google フォーム</p>
5	<p><b>取り組む時間</b></p> <p>仲間と互いの動きを見合い、課題の解決の仕方や技の組み合わせを工夫する。</p>	<p>○観察し合って見付けた自己のこつや仲間の考えたことを他者に伝えている。 【思・判・表】</p> <p>○仲間の考えや取組を認めている。 【態】</p> <p>★カメラ機能</p> <p>★Google フォーム</p>
6	<p><b>取り組む時間</b></p> <p>互いの演技を見合い、よいところを伝え合う。</p>	<p>○自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技や発展技に取り組み、技を身に付けたり、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりしている。 【知・技】</p> <p>○マット運動に積極的に取り組もうとしている。 【態】</p>

## 7 本時の指導 ( 4 / 6 )

### (1) 目標

○学習の仕方や約束を守って、仲間と助け合い、観察し合って見付けた自己のこつや仲間の考えたことを他者に伝えようとしている。

### (2) 展開

	学 習 活 動	○評価【観点】 ※指導上の留意点 ★ICT の活用									
導 入 10 分	1 集合・整列・挨拶  2 学習の流れの確認 友達と「より大きく美しく」にトライしよう  3 準備運動  4 場の準備  5 感覚づくりの運動 ・技につながる感覚を養う運動に取り組む。	※服装の確認をする。  ※掲示物を用いて、本時の学習の流れを確認する。  ※使っている部位を意識するよう言葉掛けをする。  ※安全に気を付け、声をかけ合って準備をするよう言葉をかける。  ※技へのつながりを意識しながら取り組むよう言葉をかける。									
展 開 25 分	6 取り組む時間 ①グループ（4～5人、男女混合格格同質）で練習方法や場について確認する。 ②グループで協力して練習に取り組む。 前半：グループごとに練習の場で行う。 後半：動画を撮影して、グループ内でできばえを伝え合いながら技に取り組む。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">壁倒立ゾーン</td> <td style="width: 33%;">セーフティーマット</td> <td style="width: 33%;">段差マット</td> </tr> <tr> <td style="width: 33%;">グループ練習 スペース  1グループ 小マット2枚</td> <td style="width: 33%;">発表 スペ ース</td> <td style="width: 33%;">発表 スペ ース</td> </tr> <tr> <td style="width: 33%;">グループ練習 スペース  1グループ 小マット2枚</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </div> 〈グループでの場の工夫〉 坂道マット、跳び箱、ゴム、マーカー	壁倒立ゾーン	セーフティーマット	段差マット	グループ練習 スペース  1グループ 小マット2枚	発表 スペ ース	発表 スペ ース	グループ練習 スペース  1グループ 小マット2枚			※演技の構成を基に練習方法や場を考えるよう促す。 ★カメラ機能 ★模範演技の動画 ※模範動画や資料で技のポイントが確かめられるようにする。 ※場や練習方法の選択や資料の活用、互いに助言できるようになった児童やグループを紹介する。 ○観察し合って見付けた自己のこつや仲間の考えたことを他者に伝えている。 <div style="text-align: right;">【思・判・表】</div> ○学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 <div style="text-align: right;">【態】</div>
壁倒立ゾーン	セーフティーマット	段差マット									
グループ練習 スペース  1グループ 小マット2枚	発表 スペ ース	発表 スペ ース									
グループ練習 スペース  1グループ 小マット2枚											

ま と め 10 分	7 場の片付け	<p>※安全に気を付け、声をかけ合いながら片付けをするよう言葉をかける。</p> <p>※よく使った部位を中心にほぐす。</p> <p>★Google フォーム</p> <p>※Google フォームに、技のできばえ、課題の達成状況に応じた次時のめあてなどを入力させる。</p>
	8 整理運動	
	9 学習の振り返り	
	本時の学習状況を振り返り、次時の具体的な課題を設定する。	
	10 整列・挨拶	

## 成果と課題、指導・講評 【R4 6年 研究授業】

【○…成果 ●…課題】

### 1. 視点1「タブレットを活用し、動きのポイントや自己の動きを照らし合わせたことは、自己の課題を解決することに有効であったか。」

- 手本動画と自己の動きを見比べることができたため、自己の気付きにつながった。
- 動画を見比べた事実を、相手にアドバイスとして伝えることができていた。
- 技を見る視点や、役割を決めておくと、よりポイントを絞ったアドバイスになった。

### 2. 視点2「グループを作り、技を組み合わせて演技をつくったことは、技のこつや演技を高めていく上で有効であったか。」

- ゴールがグループ発表なので、各自が友達の動きを自分事として捉え、よりよくしようと学び合う姿があった。
- グループ全体で演技を組んでいくことで、苦手な子も所属感をもち、様々な形で主体的に学ぼうとしていた。
- 学習指導要領で例示されている技と実際の発表で児童が取り組んだ技にずれが生じていた。（難易度の高い技を目指すことより、技の精度をより高める方に重点が置かれていた。）

### 3. その他

- Google フォームで振り返りをすることによって、手早くその1時間を振り返ることができていてよかった。
- 今後も体育でタブレットを使用する際、タブレットでの教え合いと運動量のバランスをとって1時間をマネジメントしていく必要がある。

## 指導・講評 NPO みんなのコード 福田 晴一 先生

- ・児童が意欲的になってきて個人練習時間を1時間増やしたのは正解。臨機応変な授業編成が必要。
- ・器械運動は非日常性な運動。特に、マット運動は美しく大きくできることを目指す達成型であり、評価が曖昧になりやすい。自己評価と他者評価を明確にするために、視覚的情報としてICTの活用が有効である。ICTは学びを広げることができる。
- ・体育でタブレットを活用することは、①自分の動きが分かる、②模範動画をすぐに確認できるというよさがある。
- ・男女混合体格同質にしたのが正解。心理的安定性（友達からの共感）が得られる。
- ・自己の課題に適した練習の場を選ぶ（学習の個性化）、グループで動きを組み合わせて演技をする（協働的な学び）という構成になっており、グループ練習では、協働的な学びで深め合っている場面が多く見られた。
- ・感覚づくりの運動（アナゴロン）は重要。
- ・振り返りでテキストマイニングを活用すると面白い。児童の考えの変容などが分かりやすい。
- ・グループ学習では、個人のめあてとグループのめあての、双方のバランスが大切である。